

平成19年度 上越医師会共同利用事業報告

上越地域総合健康管理センター

1. 会員受託事業

受託検査を利用している医療機関数は94機関で前年度と同じであった。対人検査では、CT検査と訪問X線撮影が大きく増加しており、検体検査や廃棄物処理でも利用件数を増加させている。しかし、X線フィルムの現像やコピー、廃液処理等は前年度の8割程度であった。

1) 対人検査

項目	利用医療機関数	件数
CT検査	22	232
訪問X線撮影	28	338
乳房X線撮影	10	47
単純X線撮影	1	4
骨塩定量検査(DEXA法)	8	14
骨塩定量検査(超音波法)		
肺機能検査	1	1
簡易聴力検査	2	12
平衡機能検査	1	4
眼底検査	1	1
眼圧検査	1	1
超音波検査	2	2
心電図検査(12誘導)	1	18
胃透視診断	1	1
合計	-	675

2) 検体検査

項目	利用医療機関数	件数
婦人科細胞診	11	8,048
呼吸器細胞診	36	202
液状検体・穿針細胞診	23	851
合計	-	9,101

3) その他

項目	利用医療機関数	件数
内視鏡洗浄	3	48
X線フィルム現像	6	841
X線フィルムコピー	2	60
医療廃棄物処理	36	789
現像廃液処理	15	85
定着廃液処理	15	71
婦人科保存液	11	1,946
サーベックスブラシ	7	4,405
合計	-	8,245

2. 地域保健活動

1) 保健事業(基本健康診査)

受診者数は前年度並であるが、上越市・妙高市街地で増加し、郡部は減少傾向にある。有所見者数は前年度と比べ心所見・血液系で増加し、脂質代謝・糖代謝で減少した。介護予防事業は平成18年度と19年度で判定基準に変更があり、生活機能の低下と判定された受診者数が増加した。

項目		本年	
受診者数		34,273	
診断区分	血压	正常高値血压	6,071
		軽症高血圧	
		中等症高血圧	
		重症高血圧	
	心所見	11,821	
	眼底検査	1,396	
	脂質代謝	20,370	
	肝機能	4,704	
	血液系	5,622	
	腎尿路系	7,619	
糖代謝	13,481		
肥満	7,114		

総合判定	異常を認めず	2,809
	要指導a	1,486
	要指導b	12,713
	要医療	17,265
介護予防事業	実施者数	19,634
	生活機能の低下	4,129

住民ドック健診は産業保健を参照

2) 結核検診

住民胸部X線検査全体では受診者数が微減となったが、結核検診（65歳以上）では微増となった。

項目	本年
受診者数	18,115
異常なし	14,873
要精検者数	1,416
その他	1,862
要精検率 (%)	7.8

住民の対象者は65歳以上である

3) 血液その他（基本健診、ドック等の追加項目等）

平成14年から始まった「C型肝炎等緊急総合対策（5カ年事業）」が平成18年度で終了したため、HCV抗体の実施数が減少した。その他血液検査にHBs抗原が含まれているため、同じく減少した。頸動脈エコーは上越市の各区での実施がなくなったため減少した。

項目	総コレステロール	中性脂肪	HDL-コレステロール	尿酸	BUN	ALP	血糖	HbA1c
実施数	151	151	151	31,754	802	696	143	106
項目	糖負荷試験		HCV抗体	その他の血液検査	頸動脈エコー	その他	合計	
	血糖	インスリン						
実施数	84	84	777	1,344	30			36,273

3. 学校保健活動

1) 心臓検診

学校保健法では、小・中・高校の1年生に実施することになっているが、妙高市（373名）では従来から、糸魚川市（158名）では今年度から、小学4年生も実施している。今年度より糸魚川市で実施することになったため、受診者数が増加した。

検診結果

項目		小学校	中学校	高等学校	特殊学校	合計
受診者数		3,030	2,692	2,812	64	8,598
一次検診結果	異常なし	2,544	2,330	2,292	51	7,217
	二次検診不要	292	205	295	6	798
	既管理	36	43	36	2	117
	要二次	158	114	188	5	465
	要医療			1		1
二次検診受診把握数		150	101	170	4	425
管理者を 含む (既管)	A					
	B		1			1
	C			1		1
	D	1	2	4		7
	E	52	61	74	3	190
	管理不要	128	76	126	3	333

精密検査内訳(既管理者を含む)

項目		小学校	中学校	高等学校	特殊学校	合計
診断区分	異常なし	96	52	92	2	242
	不整脈	21	20	38	1	80
	心室内伝導障害	22	17	13		52
	房室伝導障害		7	21		28
	早期興奮症候群	2	6	5		13
	心筋疾患	2		4		6
	QT延長症候群		2	2		4
	先天性心疾患および心臓弁膜症	24	18	24	2	68
	川崎病の既往	15	17	7		39
	その他	4	7	8	1	20
	合計	186	146	214	6	552

2) 寄生虫検査

実施者数は、少子化により、毎年1.5%程度減少している。

蟯虫卵検査の陽性率は、昨年度と同率であった。また、寄生虫の陽性者はなかった。

		幼・保育園	小学校	特殊学校	合計
蟯虫卵	実施者数	14,015	8,453	414	22,882
	陽性者数	32	24		56
	陽性率(%)	0.23	0.28		0.24
寄生虫	実施者数	2,796		121	2,917
	陽性者数				0
	陽性率(%)				

3) 学校検尿

実施者数は、少子化により毎年減少している。二次検尿陽性者は、前年より100名多いが、糖陽性者は減少している。精密検査受診後、要管理となった者は、前年とほぼ同数であった。

2型糖尿病5名のうち2名が今年度新たに発見された。

検診結果

項目		幼・保育園	小学校	中学校	高等学校	特殊学校	合計
検一尿次	実施者数	1,734	16,766	8,587	8,342	551	35,980
	陽性者	49(1)	464(14)	729(9)	843(20)	40(4)	2125(48)
検二尿次	実施者数	47	442	694	780	33	1,996
	陽性者	8	135	185	218	11	557
精密検査受診把握数		3	115(10)	156(8)	193(14)	5	472(32)
管理区分	A						
	B				1		1
	C		1				1
	D		4	1	3		8
	E	2	59(1)	65(3)	73(8)	2	201(12)
	管理不要	1	50(9)	89(5)	114(6)	3	257(20)

()内の数字は糖陽性者、糖尿病検診の人数を再掲

精密検査内訳

		幼・保育園	小学校	中学校	高等学校	特殊学校	合計	
腎臓病	診断区分	異常なし		30	62	95	3	190
		体位性蛋白尿		8	24	10		42
		無症候性蛋白尿		18	34	35	2	89
		無症候性微量血尿	1	29	21	15		66
		無症候性血尿	1	10	6	5		22
		腎炎		1		1		2
		腎炎の疑い	1	3	2	6		13
		その他		10	8	16		34
精密検査実施把握数		3	105	148	179	5	440	

		幼・保育園	小学校	中学校	高等学校	特殊学校	合計
糖尿病	異常なし		5	5	4		14
	腎性糖尿		5	2	4		11
	糖尿病の疑い						
	境界型糖尿病			1			1
	1型糖尿病				1		1
	2型糖尿病				5		5
	その他						
精密検査実施把握数			10	8	14		32

4) 教職員検診

受診者数の減少は、人間ドック受診等の自然減と考えられる。

有所見者数からみると脂質代謝系、肥満と判定される有所見が昨年同様に多かった。

		本年
受診者数		854
判定区分	異常なし	213
	軽度異常	91
	要経過観察	103
	要治療	26
	要精検	397
	治療中	24

		本年
機能別有所見者数	血圧	70
	心電図	133
	脂質代謝系	280
	肝機能	89
	血液系	156
	腎尿路系	94
	代謝系	10
	肥満	236
	呼吸器系	28
	消化器系	48
	胆嚢系	-
	眼科	31
	聴力	24
婦人科	-	

県教職員健診は判定基準が異なるので、統計外とした(594件)

5) 胸部検診

本年度より、一部の各種学校が胸部単独検診から定期検診に移行した分、受診者数が減少している。

要精検率は近年減少傾向にある。

項目	本年
受診者数	4,021
異常なし	3,958
要精検者数	22
その他	41
要精検率 (%)	0.5

生徒・学生は県立・私立高校1年生、上越教育大学学生である。

6) 血液検査

上越市では、小学5年生、中学2年生の希望者について、小学校は脂質検査、中学校は脂質検査・血液一般検査を実施している。

受診者数は前年より130名増加した。脂質検査、血液一般検査とも、要生活指導、要医療と判定された者は、前年とほぼ同率であった。

精検受診把握率が前年より減少した。次年度は学校等に働きかけ把握に努めたい。

	小学校	中学校	合計
対象者数	1,982	1,965	3,947
受診者数	1,114	979	2,093
受診率 (%)	56.2	49.8	53.0

検査結果

項目	判定	小学校	中学校	合計
脂質判定	異常なし	815	759	1,574
	要生活指導	143	109	252
	要医療	156	111	267
血液一般判定	異常なし	-	894	894
	要生活指導	-	45	45
	要医療	-	40	40
精検受診把握率 (%)		41.0	41.1	41.0

4. 産業保健

1) 一般健診・ドック健診(住民ドック含む)

中規模事業場2社が、例年3月に実施していた健康診断を次年の4月に実施時期を変更したため受診者数の減少を心配したが、その影響を最小限に抑えることができ、受診者数は前年と比較して大きな差は無く全体的には微増であった。

一般健診(定期健康診断、生活習慣病予防健診、成人病健診)の受診者数は、前年に比較して増加している。機能別では、肥満、脂質代謝系の有所見者の割合が高かった。

ドック健診では、前年と比較して受診者数はほぼ横ばい。機能別では、脂質代謝系、胆嚢系(腹部エコー)での有所見者の割合が高く、前年と同様の傾向であった。

	定期健康診断	生活習慣病予防健診	成人病健診	ドック健診
受診者数	27,800	16,461	6,017	7,441

	定期健康診断	生活習慣病予防健診	成人病健診	ドック健診	
機能別有所見者数	血圧	5,242	5,328	1,538	2,169
	心電図	4,362	4,076	1,362	1,158
	脂質代謝系	7,805	7,964	2,812	3,855
	肝機能	3,911	4,608	1,619	2,687
	血液系	4,491	3,421	1,122	1,782
	腎尿路系	3,023	2,986	820	2,274
	代謝系	1,744	3,548	1,213	2,684
	肥満	8,442	4,896	1,665	1,614
	呼吸器系	1,777	2,313	565	2,496
	消化器系	271	3,193	711	1,636
	胆嚢系		934		4,130
	眼科	2,058	1,808	703	3,412
	聴力	2,365	2,948	726	1,706
婦人科		46		155	

	定期健康診断	生活習慣病予防健診	成人病健診	ドック健診	
判定区分	異常なし	6,801	1,131	656	76
	軽度異常	2,478	575	326	60
	要経過観察	3,300	1,524	694	465
	要治療	1,051	919	225	1,755
	要精検	13,306	11,536	3,896	4,858
	治療中	864	776	220	227

県職員健診等の判定基準が異なる健診については、統計外とした(576件)

2) 特殊健康診断

特殊健康診断の総数では、前年と比較して減少傾向が見られる。各健診では、特に有機溶剤と特定物質で減少が目立つが、これは受診の低下によるものではなく、ある中規模事業所の受診時期の変更に伴う結果である。

また、石綿健診の減少も市職員の初回措置が一区切りを迎えた結果であると考えられる。

	有機溶剤	鉛	特化物	じん肺	石綿	電離放射線	高気圧作業	深夜業	その他	合計
受診者数	2,977	226	773	900	576	333	16	606	1,299	7,706

	有機溶剤	鉛	特化物	じん肺	石綿	電離放射線	高気圧作業	深夜業	その他	合計	
判定区分	異常なし	2,705	223	748	899	562	315	9	334	895	6,690
	軽度異常	0	0	0	0	0	0	0	9	107	116
	要経過観察	95	0	7	0	5	7	1	62	91	268
	要治療	0	0	0	0	0	0	0	8	2	10
	要精検	177	3	18	1	9	11	6	156	179	560
	治療中	0	0	0	0	0	0	0	37	25	62

3) THP

実施者数は、THPデモンストレーション事業利用事業場と助成外実施事業場の増加により、前年に比較してやや増加している。健康測定実施者数の減少については、健康測定を必須項目としているTHPステップアッププランの終了事業場が多かった為である。

今後もTHP実施事業場数の増加を目指し、積極的に啓蒙活動を行いたい。

	事業場	実施者数	健康測定	健康指導	実践活動
助成実施	8	207	164	207	207
助成外実施	8	228	0	228	228
合計	16	435	164	435	435

実践活動は、複数回実施する場合があります。

5. がん検診 (地域保健と産業保健のがん検診を含んでいる)

1) 胃がん検診

受診者数は前年と比較して、地域では減少傾向、産業では増加傾向にある。

精検受診率では、本年度より精検未受診者の追跡調査を実施したため、合計で75.8%となり昨年度より10%以上上昇した。また、発見がん数でも、84名と大幅に増加(前年62名)し、がん発見率では、0.18%(前年0.14%)となった。

今後も、がん発見率を上昇させるために、精度管理の充実に努めたい。

区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検受診率(%)	発見がん数	がん発見率(%)
地域	16,954	1,722	1,585	92.0	52	0.31
産業	28,666	3,955	2,721	68.8	32	0.11
合計	45,620	5,677	4,306	75.8	84	0.18

2) 子宮がん検診

受診者数は前年比109%で地域・産業共に増加した。年齢別発見がん数(率)は、20歳代:1名(0.09%) 30歳代:2名(0.08%) 40歳代:3名(0.08%) 60歳代:1名(0.03%) 70歳以上:1名(0.04%)であった。がんは若年者に高率に発見されていることから、若年者の受診率を上げることが今後の課題である。

また、異形成数は71名(前年50名)と増加した。検診は早期病変での発見を目的としていることから、この数値を上げるよう努力したい。

区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検受診率(%)	異形成数	発見がん数	がん発見率(%)
地域	12,342	215	201	93.5	54	6	0.05
産業	5,284	65	58	89.2	17	2	0.04
合計	17,626	280	259	92.5	71	8	0.05

3) 肺がん(X線・喀痰細胞診・CT)

胸部X線・喀痰細胞診において、地域・産業共に受診者数は昨年と比べほぼ横ばいとなっている。

胸部X線では地域において発見がん数がここ数年に比べ減少した。

産業においては精検未受診者の追跡調査を実施したため、精検受診率が約2倍に上昇した。喀痰細胞診検査では要精検者14名中発見がん数は2名だった。D・E判定で異常なしについてはその後を調査し、検討していきたい。

CTにおいて、産業では昨年度より受診者数が昨年度と比べ約10%減少した。全受診者の36%が再診者で、その内有所見者は前回画像と比較するため、要精検率は大幅に低下した。がん発見率は0.29%となった。地域では今年度から住民を対象としたCT検診が実施され(上越市、糸魚川市)、受診者数は148名であった。対象者や検査料金等の課題はあるが、今後地域・産業共にCT検診の定着を図りたい。

胸部X線

区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検受診率(%)	発見がん数	がん発見率(%)	
地域	肺がん	29,143	1,837	1,701	92.6	18	0.062
	その他	209	0	-	-	-	-
産業	57,937	1,201	804	66.9	2	0.003	
教職員	418	8	7	87.5	0	0.000	
合計	87,707	3,046	2,512	82.5	20	0.023	

喀痰細胞診

区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検受診率(%)	発見がん数	がん発見率(%)
地域	2,919	10	9	90.0	2	0.07
産業	1,732	4	4	100.0	0	0.00
合計	4,651	14	13	92.9	2	0.04

胸部CT

区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検受診率(%)	発見がん数	がん発見率(%)
地域	148	23	23	100.0	0	0.00
産業	1,042	194	143	73.7	3	0.29
合計	1,190	217	166	76.5	3	0.25

4) 乳がん検診

今年度より地域の集団検診は、視触診で要精検となった方もMMG受診ができるようになった。受診者数は地域・産業共に増加傾向で、特にMMG併用検診は年々増加している。
今後、自己検診について啓蒙活動をしていくことも重要である。

区分	受診者数	視触診			MMG		
		受診者数	要精検者数	要精検率(%)	受診者数	要精検者数	要精検率(%)
地域	8,809	7,168	173	2.4	6,090	600	9.9
産業	5,471	3,079	50	1.6	4,971	507	10.2
合計	14,280	10,247	223	2.2	11,061	1,107	10.0

区分	精検受診者数	精検受診率(%)	方法別がん発見数			合計	がん発見率(%)
			視触診	MMG	視 + MMG		
			地域	735	95.0		
産業	511	93.2	4	9	1	14	0.26
合計	1,246	94.3	6	19	4	29	0.20

5) 大腸がん検診

受診者数は、地域において16,057名で前年より440名増、産業においても29,433名で前年より471名増と共に増加した。精検受診率は産業において60.2% (前年43.1%) と増加した。これは精密検査未受診者の追跡調査を実施したためと考えられ、発見がん数の28.1%が進行がんであることから更に強化を図り、精検受診率の向上を図りたい。

区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検受診率(%)	発見がん数	がん発見率(%)
地域	16,057	803	643	80.0	32	0.12
産業	29,433	1,371	826	60.2	33	0.11
合計	45,490	2,174	1,469	67.6	65	0.14

6) 前立腺がん検診

発見がん数は27名で、がん発見率0.33% (前年0.43%) と依然として高水準にある。産業においては、精密検査未受診者の追跡調査により精検受診率71.3% (前年43%) に向上された。今後も追跡活動を強化し精検受診率の向上を図りたい。

区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検受診率(%)	発見がん数	がん発見率(%)
地域	5,594	431	309	71.7	23	0.41
産業	2,494	160	114	71.3	4	0.16
合計	8,088	591	423	71.6	27	0.33

6. その他の検診

1) 骨密度測定

超音波法に関しては、全体的に年々減少傾向である。地域保健は骨密度検診を単独で実施していた地域がレディース検診と同時に実施したことによりやや増加した。DEXA法の地域保健は、超音波法にて要精検となった方のみに実施している。

項目		地域保健	産業保健	会員受託	合計	
超音波法	受診者数	1,401	1,415		2,816	
	判定区分	異常なし	591	816		1,407
		要指導	591	467		1,058
		要精検	219	132		351
DEXA法	受診者数	12	41	14	67	
	判定区分	異常なし	1	27	2	30
		要指導	1	5	4	10
		要精検	10	9	8	27

2) 保健指導

事業所への指導は、事業所からの依頼増により実施回数、実施延人数とも増加した。県立学校教職員健康相談は、前年と同様であった。住民ドック受診者の事後指導は、事業縮小となったため、前年と比較して実施延人数が減少した。

また、平成19年度より充実ドックを開始し、保健師・管理栄養士による保健指導を行った。

		本年			
		個別指導		集団指導	
		実施回数	実施延人数	実施回数	実施延人数
事業所		11	50	8	329
教職員		9	52	1	12
メタボ健診保健指導		2	2		
人間ドック	住民ドック事後指導	38	98		
	人間ドック栄養指導	277	5,290		
	充実ドック保健指導	5	159		
合計		342	5,651	9	341